

松浦武四郎記念館 施設概要

江戸時代の終わり頃、六度にわたり蝦夷地調査を行い、膨大な調査記録を著し、詳細な地図を出版した松浦武四郎。明治維新时期には政府へ登用され、「北海道」の名称をはじめ、現在にも残るアイヌ語地名に基づいて国名（のちの支庁名）、郡名の選定を行ったことから「北海道の名付け親」と称されています。

武四郎の業績はそれだけにとどまらず、多才多芸ぶりは比類なく、交友関係も多岐にわたり、今から150年以上も前にアイヌの人々の命と文化を守るために力を尽くしたヒューマニストとしても、近年は注目されています。

松浦武四郎記念館は、伊賀市出身の俳人・松尾芭蕉、松阪市出身の国学者・本居宣長と並んで三重県の三大偉人に数えられる松浦武四郎の貴重な資料を後世に残し、紹介するため当時の三雲町（現在は松阪市）によって平成6年に開館しました。

館蔵資料は、武四郎が著した日誌、地図、書簡、絵画などが中心だが、武四郎が蝦夷地調査で持ち帰ったアイヌ民族資料も収蔵しており、現在1505点の資料が「松浦武四郎関係資料」として、国の重要文化財に指定されている。展示室では2ヶ月に一度展示資料を入れ替えて、さまざまな武四郎の姿を紹介しています。

令和4年4月にリニューアルオープンし、幕末から明治維新时期という激動の時代を生き、「北海道の名付け親」とされる松浦武四郎の波乱に満ちた生涯と多彩な功績を伝える博物館に生まれ変わりました。

開館時間 午前9時から午後4時30分まで

休館日 毎週月曜日（祝日の場合は開館し、翌平日を休館）
祝日の翌日（祝日が土日の場合は開館）
年末年始（12月29日～1月3日）
展示替え期間（2か月ごとに火曜日から木曜日まで）
※ホームページに開館カレンダーを表示

入館料

区分	個人	団体 (20名以上)	年間パスポート ※発行日から1年間有効
一般	360円	230円	1,100円
6歳以上18歳以下	230円	120円	660円
松浦武四郎誕生地 との共通入館券	410円	290円	—

※障害者手帳をお持ちの方及び付添者1名は無料

武四郎まつり マスコット
キャラクター たけちゃん



松浦武四郎記念館

〒515-2109 三重県松阪市小野江町 383

TEL 0598-56-6847

松浦武四郎記念館

検索



松浦武四郎記念館の歩み

平成 6 年 (1994)	7 月 3 日	三雲町が松浦武四郎記念館・小野江コミュニティセンター(博物館と公民館の複合施設)を開館
平成 8 年 (1996)	2 月 25 日	第 1 回武四郎まつりを開催(同まつり実行委員会主催)
平成 17 年 (2005)	1 月 1 日	三雲町が松阪市、嬉野町、飯南町、飯高町と合併して松阪市となる
平成 20 年 (2008)	2 月 23 日	松浦武四郎生誕 190 年等記念事業を行う(～翌年 2 月 22 日)
	7 月 10 日	松浦武四郎関係資料が重要文化財に指定
平成 26 年 (2014)	10 月 25 日	アイヌ民族博物館と姉妹博物館提携を結ぶ
平成 30 年 (2018)	2 月 24 日	松浦武四郎生誕 200 年記念事業を行う(～翌年 2 月 24 日)
		※北海道 150 年事業と連携、三重県総合博物館・北海道博物館・北海道立帯広美術館で開催された武四郎展に協力
	2 月 25 日	松浦武四郎誕生地(松阪市指定史跡)を開館
令和元年 (2019)	11 月 27 日	松阪市が札幌大学・札幌大学女子短期大学部と松浦武四郎やアイヌ文化に関する取り組みで交流・連携協定を結ぶ
令和 3 年 (2021)	4 月 1 日	小野江公民館が開館(記念館が博物館単独施設となる)
	10 月～12 月	高知県立坂本龍馬記念館で開催された開館 30 周年記念特別展に協力
令和 4 年 (2022)	4 月 24 日	松浦武四郎記念館をリニューアルオープン

松浦武四郎記念館の取り組み

○展示替え

重要文化財に指定された資料の展示は、年間で 60 日程度に限られるので、2 ヶ月ごとに年 6 回の展示替えが行っています。

○松浦武四郎講座

さまざまなテーマで武四郎の魅力をわかりやすく紹介することを目的に、毎月第 2 日曜日に開いており、毎回 40 人程度の方が参加されています。

○講演会

毎月開いている講座とは別に、毎年 1 回程度、外部から講師を招いて、武四郎や北海道、アイヌの人々にちなんだテーマで講演会を開催しています。

○職員の派遣

松阪市内外から武四郎やアイヌの人々の歴史や文化に関する講演を依頼され、館長や学芸員が先方へ出かけお話をしています。

○武四郎まつり

武四郎が 2 月に生まれ、2 月に亡くなったことにちなんで、毎年 2 月におこなっている地域をあげたイベントで、アイヌの人々の伝統文化を受け継ぐみなさんを北海道からお招きして、アイヌ古式舞踊を披露していただいています。

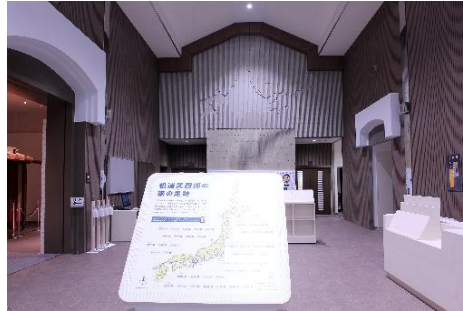
松浦武四郎記念館の課題

- 武四郎のことを広める → 実物資料をいかした展示の充実、ホームページの更新、図録等出版物の刊行、オリジナルグッズの充実、SNSを活用した積極的な広報活動
- 武四郎資料の中心施設 → 調査研究の推進、資料情報のデジタル化、重要資料の購入、重要文化財指定資料の保存修理
- アイヌ文化の普及啓発 → 講師派遣依頼への対応、体験講座の充実、関係機関との協力・連携
- 館を支える人づくり → 毎月開催している武四郎講座の継続、友の会の活動への協力
- 史跡松浦武四郎誕生地 → 地域の方々の協力による史跡の管理、誕生地の活用

リニューアルのポイント

ホール

展示を見るだけでなく
調べて学べるコーナーも充実



ホールは、今まで受付窓口で来館者への対応を行っていましたが、カウンターを設置して入館券の発行や、ミュージアムグッズの販売、質問や相談ができるほか、車いすの方へも配慮しています。

また、全国を旅した武四郎の各都道府県の足跡を二次元コードで紹介したパネルや、三重県から北海道を目指すすごろく冒険クイズ、記念館で所蔵する資料を検索できるシステムのほか、展示を見るだけでなく、みなさんで調べることができるよう学びスペースも設けています。

一畳敷の世界を再現

晩年の畳一畳の書斎「一畳敷」
を原寸模型で完全再現

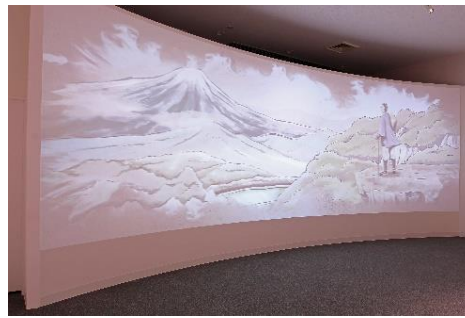


リニューアル前は、映写室と企画展示室だった空間を改装。ホールから展示室に入ると、まず等身大の武四郎像がみなさんをお迎えし、原寸模型で細部に至るまで完全再現した武四郎の書斎「一畳敷」（東京都三鷹市の国際基督教大学構内に現存）が現れます。

その向かい側の壁には、武四郎の偉業をたくさんの数字で紹介しており、いったいこの人は何者か、と興味を持っていただき、その先が見てみたくなるように演出しました。

武四郎回廊

大型プロジェクター2台で投影する
映像でも武四郎の魅力に迫ります



2台のプロジェクターで、曲線の壁面に武四郎の魅力を映し出しています。

映像の向かい側は年表になっていて、武四郎の生涯を詳しく表すとともに、小学生のみなさんがわかりやすいよう、イラストを交えて紹介しています。

また、映像の隣には、吉田松陰など武四郎と同じ時代を生きた人や、司馬遼太郎など現代の著名人が武四郎について語った言葉を紹介しています。

テーマ展示室

多彩な功績を伝えるテーマ展示
北海道地図の原寸グラフィックは
必見！



リニューアル前は、展示パネルが並び、円形の形をした映像コーナーがあったところを、武四郎の多彩な功績を伝えるコーナーにしました。

武四郎は、沖縄以外の日本全国を歩いた「旅の達人」であるとともに、幅広い人脈を築いた「交流の達人」、絵が得意な「描写の達人」、記録し本を出版した「伝える達人」、さらには古い物をコレクションした「蒐集の達人」でもありました。そして、蝦夷地（今の北海道）を6回も探検してアイヌの人々と交流し、アイヌ文化を伝えた人であったことを、資料写真をメインとしたグラフィックで紹介しています。

また、武四郎が作った北海道の詳細な地図を、1億画素のデジタルカメラで撮影したものを展示しており、9,800ものアイヌ語の地名を見させていただくことができるなど、武四郎の多彩な活動を余すところなく紹介しています。

企画展示室

重要文化財に指定された資料を
2か月ごとに展示替え



リニューアル前に実物資料を展示していたスペースは、一部のケースの配置と、ケース内の照明をLEDに変えています。ここでは、重要文化財に指定された資料を2か月ごとにさまざまなテーマで展示し、グラフィックだけでなく本物の資料から、武四郎のすごさを感じていただけます。

利便性の向上

今回のリニューアルでは、平成6年（1994）の開館から27年以上が経つ記念館の設備についても利便性を向上させる取り組みを行いました。

入り口のスロープと階段には手すりを付け、玄関には点字ブロックやインターホンを設けるなどバリアフリーに配慮しました。

トイレは、今まで段差があり、和式メインで狭かった個室を、段差をなくし、個室を様式にしました。また、多機能トイレにはオストメイトも設置しています。

これまで、和室だった場所には、授乳やおむつ替えができるベビー休憩室を設け、小さなお子様連れの方でも安心してご来館いただけます。

会議室は多目的室として模様替えし、75インチの液晶ディスプレイで武四郎に関する映像を見ていただくほか、講座やワークショップを開催したり、壁面に設けたピクチャーレールでパネルなどを展示したりするなど、フレキシブルに活用できるようにしました（多目的室の貸し出しは行いません）。

博物館機能の強化

開館以来、公民館との併設であった記念館も、小野江公民館が開館し、博物館単独の施設となりました。そこで、博物館としての機能の強化にも取り組みました。

まず、これまであった和室を書庫に改装しました。これまで27年間に集まった膨大な書籍を収納し、有効に活用できるよう整理したほか、書庫に隣接して研究室を設けました。

次に、重要文化財などの貴重な資料を保管する収蔵庫については、外に消火器が1本あるだけででしたので、万一に備えてガス消火設備を導入しました。そして、火災だけでなく水害からも資料を守るため、近くを流れる雲出川が氾濫した場合、最大3mの浸水が予想されていますが、3mの浸水があっても収蔵庫の扉が変形せず、庫内への水の流入をわずかにとどめるため、特殊な止水扉に取り替えました。

100年、200年先に貴重な資料を安全に保存・管理するとともに、調査・研究を進め、その成果を市民のみなさんに展示や講座などで還元していけるよう取り組んでいます。

リニューアル情報

設 計		株式会社 トータルメディア開発研究所
施 工	内部・外構改修工事	有限会社 伊藤工務店
		※収蔵庫・排煙設備改修は文化庁補助事業（国宝重要文化財等防災施設整備）
	同工事監理業務委託	株式会社 トータルメディア開発研究所
	展示リニューアル業務委託	株式会社 トータルメディア開発研究所
		※アイヌの人々に関わる部分は内閣府アイヌ政策推進交付金交付事業
	一畳敷原寸模型製作業務委託	株式会社 佐藤秀
	同製作監修業務委託	学校法人 国際基督教大学
	駐車場東屋建設工事	株式会社 三創建設
		※みえ森と緑の県民税市町交付金交付事業
その他	大首飾り複製修理	ぬなかわヒスイ工房
	工事中の収蔵資料保管協力	三重県総合博物館